

「放送セミナー」を開催

中国情報通信懇談会は中国総合通信局、中国受信環境クリーン協議会との共催で、アンテナ鉄塔や局舎の老朽化に対応する新技術をはじめ、マスター業務をリモートで行うことによる災害時の有用性や地デジ放送波を活用した災害情報伝達手段などの取り組みを紹介し、放送の防災・減災対策に関する最新技術動向に対する知識の向上と啓発を図ることを目的に令和7年2月19日に「放送セミナー」を開催しました。

講演には放送事業者、地方公共団体等から152名（会場39名、オンライン113名）の聴講がありました。



【講演1】

株式会社染めQテクノロジー
井上幸一 氏



【講演2】

株式会社テレビ北海道
技術・DX推進局長 高橋康二 氏



【講演3】

DXアンテナ株式会社
CATV推進室CATV推進課
辻真一氏

【講演概要】

講演1では『大改修時代は染めQの新技術が担う』と題して、株式会社染めQテクノロジーの井上幸一氏から、劣化した躯体とナノ粒子化した新素材を一体化させる補強工法について紹介されました。

講演2では、『バーチャルマスターオペレーター（VMO）で変わるマスター運用』と題し、株式会社テレビ北海道技術・DX推進局長の高橋康二氏から、VMOの機能や特性について紹介されたほか、マスター運用の災害時における課題やその課題に対応できる活用方法について説明がありました。

講演3では、『地デジIPDC技術を活用した災害情報伝達手段』と題して、DXアンテナ株式会社CATV推進室CATV推進課の辻真一氏から、IPDCの概要や地デジIPDC技術を活用した災害情報伝達手段による解決策、今後の課題と防災関連の取り組みについて紹介があり、実際にテレビを用いたデモも行われました。